



この子を救う。未来を救う。



レソトの男の子たち

World Vision

この子を救う。未来を救う。



バングラデシュの女の子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2021年度 年次報告書

2022年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5350(代表) FAX:03-5334-5359
HP:www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン 2021年度
年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2021

2020年10月 - 2021年9月

希望は、国境を越える。



2021年度 年次報告書 目次

| | | | |
|-----------------------|----|--------------------------|----|
| 数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン … | 03 | 企業・団体との連携 …… | 19 |
| 2021年度 活動マップ …… | 05 | 広がる支援の輪 …… | 21 |
| チャイルド・スポンサーシップのしくみ …… | 07 | 皆さまとともに …… | 22 |
| チャイルド・スポンサーシップによる事業… | 09 | Take Back Futureキャンペーン … | 23 |
| 募金や他団体との連携による事業 …… | 13 | 2021年度 会計報告 …… | 24 |
| 国内での事業 …… | 17 | 2021年度 支援事業一覧 …… | 27 |
| アドボカシー …… | 18 | ワールド・ビジョンについて …… | 29 |

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとし、
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ウガンダの子どもとワールド・ビジョンのスタッフ

ごあいさつ

日ごろより、ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて、世界の子どもたちをご支援くださり、誠にありがとうございます。心からの感謝を申し上げますとともに、年次報告書をお届けいたします。

2021年度も世界は新型コロナウイルスに翻弄されました。紛争、自然災害、気候変動等も世界的な貧困や飢餓等の危機に拍車をかけました。私たちワールド・ビジョンもこのような危機に直面し、難しい状況に対峙することが幾度もありました。

しかしその都度、「世界で最も困難な状況にある子どもたちに寄り添い続ける」という揺るぎない使命を再認識し、その使命を遂行し続けることができました。新型コロナの支援では、ワールド・ビジョン全体でこれまでに、約3,100万人の子どもたちを含む7,200万人以上の人々に支援を届けました。基幹の支援プログラムであるチャイルド・スポンサーシップを通じては、ワールド・ビジョン全体で約340万人の子どもたちに、ワールド・ビジョン・ジャパン単体では60,572人の子どもたちに支援を届けることができました。

これもひとえに皆さまのご支援のおかげと、改めて心より感謝申し上げます。まだまだ困難な時代は続きます。ワールド・ビジョンは、時代が進むにつれて発生する新しい困難にも、果敢に立ち向かい、子どもたちの命と未来を守ってまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

小西 孝蔵



「こんなに素晴らしい仕事はほかにありません。子どもの命を救うことができますし、その家族に希望を届けられるからです」これは、政情不安やコロナ禍等で困難極まるアフガニスタンにとどまり、支援活動を続けている同僚の言葉です。

コロナ禍で海外渡航が制限され、ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフも私も、いわゆる「現場」に行けない日々が続きました。現地にもワールド・ビジョンの事務所はありますし、世界の同僚たちと連携して活動を続けられるのは幸いです。一方で、現場で起こっている真実をこの目で確かめられないことへの漠然とした不安がありました。コロナ禍に加えて、紛争、災害、気候変動等、複合的な問題が深刻さを増したことで、非力を痛感することも多々ありました。

しかし、冒頭の同僚の言葉で目が覚めました。現場には課題や困難が山積していること、けれども同時に、人々の中で確実に希望が生まれていること。そのことに、改めて思い至りました。希望を見失うことなく一歩ずつ進んでいくことの大切さを、再確認することができました。

そして、日々生まれているその希望は、紛れもなく、皆さまからいただいたご支援が結実したものです。変わらぬご支援に、心から感謝申し上げます。皆さまのご期待に沿えるよう、また何よりも、世界の子どもたちが豊かに生きられる世界を目指して、これからも困難に挑戦してまいります。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事/事務局長

木内 真理子



ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かないのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2021年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数



※国内災害・子ども支援事業含む

活動を数字



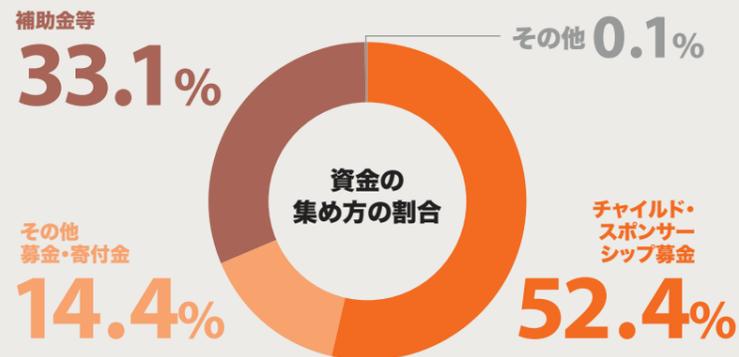
資金の集め方

2021年度の経常収益
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

61億3,725万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約5割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

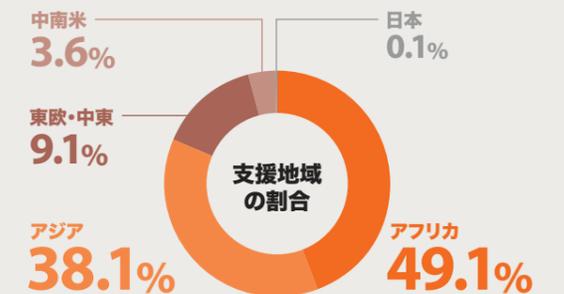
2021年度の経常費用
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

59億7,594万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため 1.6%
広報活動のため 15.5%
現地事業活動のため 82.9%

現地事業活動のため 82.9%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界36カ国で169の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2021年度は世界36カ国で169の事業を実施しました。



各国駐在スタッフ(2021年度)

| | | |
|-------|---------|---------------|
| 渡邊 裕子 | ヨルダン | 2015/3~ |
| 松岡 拓也 | カンボジア | 2017/2~2021/2 |
| 松崎 紗代 | ヨルダン | 2019/9~ |
| 宮内 繭子 | ラオス | 2019/11~ |
| 大沢 歩 | タンザニア | 2019/12~ |
| 李 義真 | カンボジア | 2021/2~ |
| 吉川 剛史 | バングラデシュ | 2021/6~ |

アフリカ

開発援助



読書スキルを学ぶ子どもたち
(ルワンダのキラムルジAP)

開発援助



安全な水を適切に管理するために
つくった水管理委員会と大沢スタッフ
(タンザニア)

開発援助



洋裁の職業訓練を受けて生活を再建した
女性たち(コンゴ民主共和国のカンボAP)

開発援助



女の子たちに生理用品等の衛生キットを
届け、啓発活動を実施しました
(ケニアのイラマタクAP)

緊急人道支援



紛争の影響を受ける子どもたちに
文房具セットを届けました(南スーダン)

東欧・中東

緊急人道支援



アズラック難民キャンプで配布する
清掃用品を確認する松崎スタッフ
(右/ヨルダン)

緊急人道支援



心のケアや感染予防に関する教材キットを
子どもたちに届けました(イラク)

アジア

開発援助



洪水支援の現金給付の式典にて。給付を
受けた地域の人々(前列)と宮内スタッフ
(後列左から4番目/ラオス)

開発援助



生計向上のための牛を届けました
(ベトナム)

開発援助



コロナ禍での家庭学習のため、家庭に教材を
届け、保護者に指導法を伝えました
(フィリピンのサマルAP)

開発援助



母乳育児の大切さを伝える活動に参加した
お母さんたちと李スタッフ
(左から2番目/カンボジア)

中南米

開発援助



コロナ禍での子どものケアの一環として
実施した折り紙ワークショップ
(エクアドルのフンガラAP)

開発援助



新しくトイレを建設し、
その壁を子どもたちの絵で飾りました
(エルサルバドルのティエラ・ヌエバAP)

WVJが事業を実施している国

アフリカ

ウガンダ エスワティニ(スワジランド)
エチオピア ガーナ
ケニア コンゴ民主共和国
スーダン ソマリア
タンザニア チャド
マラウイ 南スーダン
ルワンダ

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
シリア
ヨルダン
レバノン

アジア

インド インドネシア
シンガポール スリランカ
台湾 ネパール
フィリピン ベトナム
モンゴル ラオス

中南米

カンボジア
タイ
バングラデシュ
ミャンマー
日本
エクアドル
エルサルバドル
ホンジュラス

緊急人道支援



ロヒンギャ難民キャンプに手洗い場を設置し、
子どもたちに手洗いの方法を教えました
(バングラデシュ)

※AP(Area Program)とは、チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムを意味しています。詳しくはP7-12参照。

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養 健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



「息子は栄養不良でしたが、支援のおかげで栄養のある食事が作れるようになり、息子の体重も増えました」
(タンザニアのムゲラAP)

生計向上 家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



「鶏の予防接種や飼育小屋の提供を受け、鶏の病気が減り、多くの収入を得られるようになりました」
(ミャンマーのタバウンAP)



※AP=Area Program (チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラム)

教育 学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



子どもたちが楽しんで学べるように教師に向けた研修も行います
(タイのトゥンワAP)

水衛生 安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



「井戸のおかげで水が原因の病気になることも、水汲みに遠くに行くこともなくなりました。宿題をする時間ができて成績も上がりました」
(エチオピアのデラAP)

子どもの保護 子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



「子どもクラブ」の活動を通じて楽しみながら自分たちの権利を学ぶ子どもたち
(インドネシアのトゥナAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

開始 ▶▶▶▶

それぞれの支援地域のニーズに合わせて子どもの保護等の活動を行います。事がら進めます。

実施中の地域プログラム(AP)

AMERICAS キルヤンガ、ロバランギット・カレンガ(ウガンダ)、ゴンドール・ズリア、テラ(エチオピア)、イララマタク、キアムボゴコ(ケニア)、カンボポ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲガ、シェウラ(エスワティニ(スワジランド))、ゴロワ、ムキンガ、ムゲラ、ルテンデ(タンザニア)、キラムルジ、グウィザ(ルワンダ)

活動が進みます

水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

ASIA カンドゥクール、キラユ、サイダベット、テオガム、ブドゥコックタイ(インド)、トモ・フオ、ボレイ・チュルサー(カンボジア)、リティマリヤダ(スリランカ)、西ドティ、バジャン(ネパール)、イスラムアール、ビルゴジ、ピロム、フルバリア(ラングラテシュ)、サマール、レイテ(フィリピン)、ダバック、チャンエン、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、カンティタン、タバウン(ミャンマー)、ハイラアスト、バヤン・ウルギー(モンゴル)

卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

中南米 コルタ、フンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

2021年度に卒業した地域プログラム(AP)

AFRICA ケーユ(マラウイ)

ASIA トウナ(インドネシア)、タバヤ、トゥンワ(タイ)

開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

2021年度は4つの地域プログラムが卒業(支援終了)を迎えました。そのうちの2つの地域での成果をご紹介します。

支援卒業報告

タブラヤ地域プログラム(タイ)

支援期間 2009年～2021年



支援の背景

子どもたちの健やかな成長を妨げる負の連鎖

タイの首都バンコクから東へ約300kmに位置するタブラヤ地域は、カンボジアと国境を接する町、アランヤプラテートから車で1時間のところにあります。主な産業は農業ですが、毎年のように起こる干ばつ被害のため、生産性は低く、多くの家庭が家計をまかなえていませんでした。また、貧しさのために多くの子どもたちが働きに出てしまう状況は、学力低下を招く悪循環に。さらに、伝染性疾患に対する知識不足でHIV/エイズや結核が広がりやすく、地域の大きな問題となっていました。



干ばつが続き、農業で生計を立てづらい状況 衛生的な水を得られず、感染症の大きな原因に

実施した支援の概要と成果

13年にわたる支援で子どもたちが安心して暮らせる環境に

教育

教育の重要性を伝える啓発活動や、カンボジアから移住してきたタイ語が苦手な子どもが対象の読み書き講習、学習習慣づくりのための就学前教育、教員研修等を繰り返し実施。上級生が下級生を教える制度も導入し、272人の読み書き能力が向上しました。このような教育環境の充実が義務教育課程の卒業率や、政府による学力試験の合格率向上につながりました。



教育環境が整い、就学率も学力も向上しました

生計向上

これまでの支援で養豚や養鶏、キノコ栽培等生計手段の多様化を進めるとともに、干ばつ対策の水管理計画や貯水池建設、農業技術の研修を実施。当初最低限の生活もできない家庭が9割以上でしたが、2015年には地域の平均世帯年収は3倍近くに増加。また、職業訓練校の支援も行い、子どもたちが将来働くために必要な能力が身につく環境も整えました。



地域内の仕事で生計を立てられるようになりました

保健・栄養

病気の予防や対処、感染症拡大の防止、食生活や衛生習慣の啓発、新生児や妊婦、障がい者のケアのために、地域住民の健康を支える保健ボランティアを育成しました。今ではボランティアが中心となり地域全体に保健衛生の知識を広め、衛生環境も改善されています。また、予防接種推進や虫歯予防に関しては、子どもたちが自らメッセージを発信し、注意喚起しています。



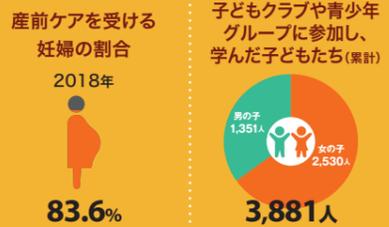
保健ボランティアを中心に、保健衛生環境を改善しています

子どもの保護

子どもたちや若者が自分に起こりうる問題や、その対処方法、ライフスキル等を学ぶ子どもクラブや青少年グループを設立。さらに、子ども主体で行う啓発活動では、保護者や地域住民は子どもの保護や権利、子どもたちを支援する方法を学びました。自治体も子どもに影響のある政策を策定する際には、子どもたちに意見を聞く等、変化も見られました。



子どもの権利や保護に理解のある地域になりました



支援を受けた住民の声
サングウィアン・ブロンジュンバさん(地方自治体メンバー)

皆さまに地域を代表して心から感謝いたします。「子どもの保護」の活動により、地域のリーダーや保護者が子どもたちの価値を理解し、子どもたちの声を聞くようになりました。結果、子どもにとって安全な地域になることができました。私たちが行政の立場から、子どもたちや地域のために必要な行動が分かるようになり、引き続き、子どもたちの安全と地域を守るために活動していきます。



支援卒業報告

クーユ地域プログラム(マラウイ)

支援期間 2006年～2021年



支援の背景

感染症や栄養不足、虐待が子どもたちを脅かす状況

クーユ地域プログラムを実施しているムジンバ県チンティ地区は、マラウイの首都リロングウェから北へ約325kmに位置しています。支援地域では住民のほとんどが農業に従事していますが、生産性は低く、多くの住民が貧困に苦しんでいます。日々の食料にも事欠く貧しさから、栄養不良の子どもの多く、劣悪な衛生環境が原因で下痢等の病気が頻発する状況でした。また、子どもを守り大切に育てるという価値観が根付いておらず、暴力や虐待も深刻な問題となっていました。



机や椅子のない教室で勉強する子どもたち 地域唯一の保健センターにベッドがわずか6床

実施した支援の概要と成果

16年かけて困難に屈しない喜びある生活へ

教育

校舎や教員宿舎、トイレの建設・修復に始まり、机、教科書、本の提供等、学校の環境整備に着手。現在、教師1人あたりの生徒数は平均98人から54人に、1教室あたりの生徒数は119人から56人までに改善されています。また、母親への啓発活動を進め、教育の質も高まりました。結果として、小学校就学率が向上し、大学に進学する子どもたちも増えました。



教育への関心が高まり、就学率と地域住民の識字率も向上

保健・栄養

HIV/エイズに関する研修や陽性者へのサポート、予防接種の実施、保健施設や井戸、トイレの整備、母子保健に関する啓発を行いました。現在は保健ボランティアが中心となり住民の健康状態を確認しています。また、新型コロナウイルス感染症の対策として、正しい知識をもとに適切な感染予防に取り組めるよう、地域リーダーへの啓発やラジオを通じた情報発信を繰り返し実施し、消毒液の支援と手洗い場等を整備しました。



多くの感染症から子どもたちを守るようになりました

生計向上

堆肥を使った環境にやさしい農法への改善や貯蓄・融資グループの設立等、多様な支援活動を通じて、農作物の種類と収穫量の増加を実現。また、ヤギや乳牛の支援で栄養価の高いミルクを飲めるようになった子どもたちは栄養状態が改善し、人々は家畜の販売で学用品や医薬品も買えるようになりました。農業協同組合の設立も安定した収入確保につながっています。



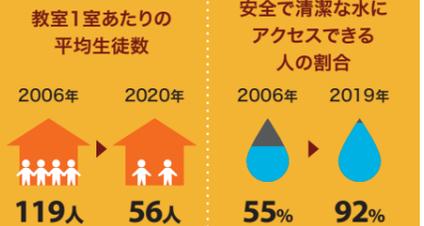
家族の収入と、子どもたちの栄養状態が改善されました

子どもの保護

地域のリーダーを中心に子どもの保護委員会を設立。現在はメンバーが、結婚を強要する親の説得や、虐待を発見した場合には警察に通報できるシステムを構築。また、女の子が通学路で危険な目に遭うことなく勉強に集中できるよう学校に女子寮を建設しました。さらに、関係者を集め子どもの保護に関する研修も行う等、地域全体で子どもを守る環境を整えています。



女子寮が建設される等、子どもの保護への意識が向上



支援を受けた住民の声
デクスター・ングルウェさん(村落開発委員会委員長)

以前、木の下で勉強していた子どもたちは、教室で勉強できるようになりました。栄養不良や虐待で苦しんでいた子どもたちも必要なサポートを受け、健やかに過ごしています。この活動の成果を私たち自身が今後も持続し、促進させていくために、住民による委員会を立ち上げました。これからも、この地域のために活動していきます。ご支援くださった皆さまに心から感謝いたします。誠にありがとうございました。



開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

44の地域プログラムを世界中で継続しています。そのうちの3つの地域での成果をご紹介します。

スリランカからの報告

リディマリヤッタ地域プログラム

支援期間 2009年～2028年



支援の背景

妊産婦や子どもたちにのしかかる貧困や栄養不良の問題

スリランカの首都から東へ約200kmに位置するリディマリヤッタ郡はこの国で最も貧しい地域のひとつ。約半数の住民が政府の定める貧困ライン以下の生活をしています。灌がい設備が整わず収穫が少なく、それによる貧困が子どもや妊産婦に悪影響をおよぼしています。



乾期には川が干上がり水不足となります

2021年度の主な成果

生計向上

農水産物の技術研修を行い、収穫量を上げ、販売につながるよう支援。また、家族等で小規模ビジネスを立ち上げる研修も実施しています。

仕立てた服を売るビジネスを始めた女性と笑顔の息子



子どもの保護

コロナ禍の休校続きで、ストレスを抱える子どものために、健康維持と学習支援を目的としたレクリエーション活動を実施しました。

絵画のレクリエーションを楽しむ女の子



支援地域からの声

「タワシ製造と販売のビジネスを広げる研修や資材提供を受けました。今では生産量も販売量も伸び、家族を十分養うことができます」

ダルマトナさん(左)と家族

エスワティニからの報告

シェウラ地域プログラム

支援期間 2007年～2024年



支援の背景

女性や子どもが汲んでくるのは命を落とすこともある危険な水

首都ムババーネから東へ約100kmのルボンボ地方にあるシェウラ地域。ここは水資源が乏しく、不衛生な環境です。女性や子どもが毎日遠くまでこの水を汲みに行っていました。学校には水道、トイレが整っておらず、地域には感染症で命を落とす子どももいました。



安全ではない水源から水を汲む女の子

2021年度の主な成果

水衛生

水供給システムを建設し、24カ所に給水所を整備。住民3,637人に清潔な水がもたらされ、学校では手洗い等の衛生習慣も改善しました。

ソーラーパネル式の井戸から水を汲む子どもたち



子どもの保護

育児費用を担う女性の貯蓄能力向上のため、セーフティーネットを強化。結果、野菜の小売等、小規模ビジネスを始める家庭が増えています。

小規模貯蓄グループの月次ミーティングの様子



支援地域からの声

「菜園に水をやるのが楽しいです。ワールド・ビジョンが遠くの水源から水を引き、家の近くに水道を作ってくれたので、私は野菜を育てることにしました」

マカロンドウエちゃん(10歳/左から2人目)

エクアドルからの報告

コルタ地域プログラム

支援期間 2010年～2026年



支援の背景

栄養不良や家庭内暴力等子どもをおびやかす問題が山積

エクアドル中部のコルタ郡は、支援開始当時、人口の93%が貧困層で、国内で最も貧困率が高い地域でした。水道等のインフラ整備が整っておらず、子どもの就学率の低さ、慢性的な栄養不良、家庭内暴力等、多くの問題を抱えていました。



老朽化し雨漏りや安全性に問題を抱える校舎

2021年度の主な成果

保健・栄養

5歳未満の子どもを持つ保護者に、食事の作り方や子育てスキル等を伝える研修を実施。地場野菜を家庭で栽培する支援も行い、子どもの栄養改善に取り組みました。

子どもと一緒に子育ての研修に参加するお母さん



子どもの保護

行政と協力し保護者に研修を実施。子どもの健やかな成長をコミュニティ全体で見守ることの重要性を伝え、保護者の役割を果たせるようにサポートしました。

研修に参加したお母さん(右)とサポートするスタッフ



支援地域からの声

「子育ての方法を学び、愛情をもって子どもを育てられるようになりました。家庭菜園の支援も受け、栄養のある食事を作れるようになりました」

野菜を収穫するリリアさん

チャイルド・スポンサーとチャイルドとのつながり

チャイルド・スポンサーシップは、約5万人のチャイルド・スポンサーの皆さまの支援に支えられています。チャイルド・スポンサーになると、支援の成果をお知らせする報告書やチャイルドからのグリーティングカードが届けられるほか、手紙のやりとりや支援地域の訪問等を通じてチャイルドと1対1のつながりを深めていただけます。

手紙の交流が再開しました

2021年度は、コロナ禍によって大きな影響を受けていた手紙の交流が再開。チャイルドからの手紙約18,900通を、チャイルド・スポンサーの皆さまに届けることができました。スポンサーの皆さまからチャイルドへ送られる手紙は、2021年7月に受け付けを再開。国際郵便に大幅な遅延や受け入れ停止が発生していたことから、ワールド・ビジョン・ジャパンの事務所で手紙を集約し、一括して現地事務所に発送するという対応をとりました。



生まれて初めて誕生日カードをチャイルド・スポンサーから受け取り、笑顔を見せるチャイルド(エチオピア)



コロナ禍、マスクを着用してチャイルド・スポンサーに手紙を書くチャイルド(エクアドル)

募金や他団体との連携による事業

皆さまからの募金や日本政府からの補助金、他団体との連携
紛争・災害の中にある人々や子どもたちへ迅速に支援を届け

による事業を実施しています。
ています。

開発 緊急 子どもの保護

事業実施国 エチオピア、ケニア、タンザニア、南スーダン、アフガニスタン、イラク、
ヨルダン、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・
プラットフォーム(JPF) / 国連児童基金(UNICEF) / 国連人道問題調整
事務所(UNOCHA) / 国連難民高等弁務官事務所(UHCHR)

皆さまからの募金額

| | |
|-----------------------------|-------------|
| ■児童保護募金 | 2,396,986円 |
| ■危機にある子どもたちのための募金 | 49,051,656円 |
| ■誕生日記念募金 | 23,894,116円 |
| ■コミュニティ・サポーター | 83,455,000円 |
| ※「水・食糧支援」分、「難民・国内避難民支援」分を含む | |
| ■ミャンマー難民危機緊急支援募金 | 801,500円 |

開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ウガンダ、エチオピア、ガーナ、スーダン、ソマリア、タンザニア、チャド、南スーダン、
ルワンダ、アフガニスタン、イラク、ヨルダン、バングラデシュ、ミャンマー

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・
プラットフォーム(JPF) / 国連児童基金(UNICEF) / 国連食糧農業機関
(UNFAO) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) / 国連世界食糧計画
(WFP) / 国連難民高等弁務官事務所(UHCHR) / 世界銀行(WB)

皆さまからの募金額

| | |
|-----------------------------|--------------|
| ■クリスマス募金 | 132,293,547円 |
| ■水と食糧のための募金 | 15,234,067円 |
| ■ラブ・ローフ募金 | 1,954,172円 |
| ■コミュニティ・サポーター | 83,455,000円 |
| ※「子どもの保護」分、「難民・国内避難民支援」分を含む | |
| ■WVマラソンチャリティ募金 | 32,000円 |

バングラデシュからの報告

北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業



支援の背景 子どもたちを苦しめる ごみや汚物が散乱する環境

人口増加が著しいバングラデシュの首都
ダッカ。その中にあるミルプール地区
内の貧困層居住地区の人々は、不衛生
で劣悪な生活環境に苦しめられ続け
ています。ごみ処理のシステムが確立
されておらず、激しい雨が降ると住居
の目の前を通る道は水没し、ごみや
汚水で溢れかえる場所さへあります。
また、衛生的なトイレへのアクセスも
限られ、子どもの健康を脅かしています。



住居のすぐそばに迫るごみ



住民がごみを収集所まで運ぶよう大型三輪車を提供

排水溝に新たにフタを設置。ごみを捨てにくい環境を整備

共用部分を掃除する賃借を根付かせる「清掃キャンペーン」を定期的に開催

子どもたちに健康的な生活を届けるために衛生環境を整備

2021年度の主な成果

熱意ある住民たちの取り組みにより衛生状況が徐々に改善

2019年11月から、北ダッカ市ミルプール地区内の貧困層居住地区にて、ごみ問題と衛生状況の改善に取り組む事業を継続的に実施しています。この事業ではトイレや排水溝の設置等に加えて、住民への行動変容の呼びかけと、彼ら自身による衛生状況の改善にも注力しています。そのひとつが老若男女問わず熱意のある住民によって構成される「ごみ・衛生管理委員会」。定期的に会合を開き、地域住民による清掃キャンペーン等も実施しています。また、地区の子どもたちから成る「子ども衛生グループ」には合計で480人が参加し、ごみ問題やトイレの使用法のほか、特に新型コロナウイルス感染症拡大防止とも関連して、適切な手洗い習慣についても学び、周囲の家族や友人への情報発信も続けています。

支援地域からの声

ごみを捨てないよう周囲に声をかけています

「子ども衛生グループ」に参加する前は、ごみや衛生の問題について何も知りませんでした。しかし、グループで学ぶことで、適切なタイミングと方法で手を洗うことができ、またごみをポイ捨てしなくなりました。ポイ捨てしようとしている人がいたら声をかけて止めさせるようにしています。



子ども衛生グループで活動する男の子

数値で見る成果

修繕、新設したトイレ

49基

新設した排水溝

約511m

「ごみ・衛生管理委員会」委員数

250人

南スーダンからの報告

アッパーナイル地方における緊急食糧支援事業



支援の背景 これまで経験したことのない最も深刻な食糧危機

南スーダンでは、気候変動の影響による干ばつや洪水、地域紛争、マクロ経済危機、2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大といった、複合的な危機により、これまで同国が経験した中でも最も深刻な食糧危機に直面しています。食料不足により全国で約140万人の子どもたちが急性栄養不良に陥ると言われています。



栄養不良と診断された子ども



スタッフが各家庭を訪問し子どもの栄養状態を調査

正しい栄養知識と感染症対策についての啓発活動を実施

食糧支援として穀物を受け取った女性

飢餓から抜け出すために食糧・栄養支援を継続

2021年度の主な成果

栄養不良の子どもとお母さんに支援を届けています

国連世界食糧計画(WFP)と協働で、アッパーナイル州とワラップ州において、紛争や自然災害等、複合的な危機の影響を受ける人々に、さまざまな食糧・栄養支援を行いました。今年度もこれまでと同様に感染症対策を行いながら支援を継続しています。妊娠・授乳中のお母さんを対象に、栄養補助食を用いて栄養改善を進めたほか、新型コロナウイルスによる学校の休校中は、自宅で調理できる食糧を配布し、子どもたちとその家族の栄養状態の改善に取り組みました。また、通常の食糧配布においては、食糧を届けるだけでなく、コミュニティに住む保護者に働きかけ、栄養不良を予防するための意識向上・行動変容を促す啓発活動、農業や商業による生計向上を支援する等、子どもたちが栄養不良に陥らないための予防策を講じました。

支援地域からの声

コロナに洪水と毎日状況が悪化し、不安が尽きません

シングルマザーとなって気持ちが沈み食欲が落ちて、妊娠中に栄養不良になりました。子どもが産まれた後もミルクが買えず、みるみる子どもの体調が悪化し、ワールド・ビジョンの栄養支援を受けることになりました。数カ月の治療の末、娘は無事に回復しましたが、この先も食料への不安が尽きません。



アンジェリナさんと双子の女の子

数値で見る成果

配布した食糧

427トン

栄養補助食を届けた子ども・妊産婦

8,475人

給食支援(または持ち帰り用食糧の配布)をした学校

99校



難民・国内避難民支援

事業実施国 ウガンダ、コンゴ民主共和国、スーダン、南スーダン、ルワンダ、アフガニスタン、シリア、ヨルダン、ホンジュラス

連携機関 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／国連児童基金(UNICEF)／国連人道問題調整事務所(UNOCHA)／国連難民高等弁務官事務所(UHCHR)／欧州委員会人道援助・市民保護総局(ECHO)／教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)

皆さまからの募金額

| | |
|-------------------------|-------------|
| ■夏期募金 | 89,000円 |
| ■難民支援募金 | 99,045,350円 |
| ※「新型コロナウイルス感染症緊急対応」分を含む | |
| ■コミュニティ・サポーター | 83,455,000円 |
| ※「子どもの保護」分、「水・食糧支援」分を含む | |
| ■プロジェクト・サポーター | 9,796,500円 |
| ■プロジェクト・サポーター(難民支援)... | 32,547,000円 |
| ※「新型コロナウイルス感染症緊急対応」分を含む | |
| ■シリア緊急支援募金 | 743,500円 |



新型コロナウイルス感染症緊急対応

「最も弱い立場の人々のために」迅速に始まったワールド・ビジョン史上最大規模の支援

2020年3月11日、WHO(世界保健機関)は新型コロナウイルス感染症のパンデミックを宣言しました。その数時間後、ワールド・ビジョン(WV)は、70年の歴史の中で最大規模となる世界的な緊急対応を開始しました。チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラム(P7-8参照)を通じて感染対策等の支援を行うほか、医療体制が整っていない国や難民・避難民が多い国に住む人々にも、必要とされる支援を現在も継続中です。その数は、2021年10月22日時点の累計で72,012,019人(子ども31,162,303人を含む)を超え、緊急対応開始時に掲げた「最も弱い立場にある7,200万人に支援を届ける」という目標を達成しています。ワールド・ビジョン・ジャパンでも募金の受け付けを開始し、新型コロナウイルス緊急対応募金として、2020年3月～2021年9月までに92,570,454円をお預かりしました。この募金は、コロナ禍の影響を受けて苦しむ子どもたちや人々のために役立てられています。



シリアからの報告

シリアにおける国内避難民への水衛生支援事業



支援の背景 劣悪な環境で 10年以上続く避難生活

10年以上続くシリア危機。今も散発的な空爆等が続く中、劣悪な環境で避難生活を余儀なくされる国内避難民が、シリア北部に280万人もいます。長く激しい紛争であらゆるものが破壊され、安全な水へのアクセスや衛生サービスが欠如しています。また、衛生環境が悪化し、新型コロナウイルス感染症への対策ができず、人々は毎日命の危険にさらされています。



住居が密集する避難民キャンプ



衛生用品を配布する様子



新型コロナウイルスの予防法について学ぶ子どもたち



給水車で安全な水を届けました

避難民キャンプに安全な水等を提供、衛生環境も整備

2021年度の主な成果 紛争の影響下にある12万人以上の健康状態を改善

避難民キャンプで暮らす人々、また、受け入れる現地コミュニティの人々を対象に、安全な水の提供、堆積していたごみの撤去、週2回以上のごみの収集、共同トイレの整備・維持管理等の支援を実施しました。また、キャンプから流れ出る生活排水による衛生環境の悪化を食い止めるため、排水管と下水管を新設して既存の下水管につなげる下水管整備を行いました。さらに、新型コロナの予防に不可欠な水衛生サービスとして、衛生用品の配布、予防啓発活動等を通じて、人々の感染予防対策の実践を促しました。紛争の影響下にある人々の命を守り、約128,000人の健康状態の改善に取り組みました。

支援地域からの声

基本的な感染予防ができて感謝しています

私は7年前、爆撃から逃れるため子ども6人を連れて故郷を離れました。避難場所を転々とし、数年前からここで暮らしています。農地、家、夫、すべてを失った避難生活で、新型コロナの脅威が迫っても、私たちには余裕がありませんでした。幸い、感染予防の研修に参加することができ、安全な水や衛生用品の提供を受け、基本的な予防ができています。



ウム・カリムさん(仮名/左から2人目)とその子どもたち

支援4つの柱

WVの支援のゴールは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制し、ぜい弱な環境にある子どもたちとその家族への影響を軽減することです。このゴールを達成するため、4つの柱を軸に支援を続けており、その成果の一部をここにご報告します。



感染対策を伝えたり
38,544,784人
感染対策キットを届けた人
16,948,698人

その他、衛生用品の配布、衛生施設の整備、ワクチンに関する情報提供等



訓練した地域のヘルスワーカー
199,223人
防護用具を提供した医療従事者
2,207,346人

その他、マスクや手袋等の配布、隔離スペース設置の支援、患者輸送支援等



社会心理的サポートをした人
4,734,888人
自宅学習用に提供した教材
1,875,242セット

その他、教師のトレーニング、家族への食料・現金・生計確保の支援等



国際社会や各国政府に対する働きかけによって変容した政策
381
公式声明等の外部向けアクション
2,647

その他、各種団体や政府との協働、ワクチン調整機関との協働等



バングラデシュの支援地域からの声

家族最大のピンチをワールド・ビジョンが救ってくれました

運転手として働いていた夫は新型コロナの影響で失業し、家賃と息子の学費のため借金をしました。私は縫製工場に働きに出て、何とか毎日食事ができていました。しかしある日、息子が犬にかまれて大けがをしてしまい、病院に行くためにまた借金を返すあてもなく、食べ物もなくなり、途方にくれていた時、WVが新型コロナ支援金として現金を給付してくれました。これがあれば、私は何をしていたかわかりません。支援が息子と私を蘇らせてくれました!



スミさん(右)と回復した息子のピシャール君(8歳)

緊急 アドボカシー **国内支援**

アドボカシー **アドボカシー**

新型コロナウイルス対策子ども支援事業

体験と学びの機会を失った子どもたちに継続して支援

長引くコロナ禍を受け、「新型コロナウイルス対策子ども支援事業」を2021年度も継続して実施しました。経済状況の悪化による生活困窮、さまざまな体験・学びの機会の喪失等、コロナ禍は子どもたちの生活に甚大な影響をおよぼし続けています。2021年度は、地域社会で活動する子ども支援団体計12団体(12事業)への助成を通じ、約900人の子どもたちの食・遊び・学び・居場所等を支えることができました。2022年度はこの活動を拡大し、DV・虐待被害者等、特にぜい弱な環境にある子どもや親子の支援を行う団体への助成を開始する予定です。



助成を行った中野区のフードパントリーでは、子どもたちに食材を届けました

子どもの権利が実現する社会をめざす活動

子どもの権利を守る「子ども基本法」の実現のために

「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」の実行委員団体として、日本で「子どもの権利条約」が守られるようになることをめざして活動しています。具体的には、賛同する全国約200の組織・個人(2022年1月現在)とともに、広報・啓発、ネットワークづくり、政策提言活動等を展開しています。特に、子どもの権利を守る「子ども基本法」制定等に向けた議論が活発化する現在、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)はその確実な実現に向けた動きをリードし、今後も積極的にこの活動に取り組みます。



◎広げよう!子どもの権利条約キャンペーン
子どもの権利保障について国会議員と直接対話し、
政策決定に反映されるよう働きかけました



スタッフの声
**コロナ禍だからこそ、
私たちは子どもたちに寄り添う必要があります**

昨年度、緊急的に開始した「新型コロナウイルス対策子ども支援事業」。主に子どもの食・遊び・学び・居場所等を支えるこの活動が、コロナ禍の影響を大きく受ける子どもや家庭にとってどれほど重要なことか、身に染みて感じていました。例えばそれは月2回の食材配布や、週1回の無料塾、その場所で交わされるちょっとした会話や、小さなクリスマス会等から実感できます。それらを心から必要とし、喜んでくださる子どもや家庭がたくさんあったという事実は、事業を実施してよかったと思う気持ちとともに、厳しい現実が胸が塞がれる思いを抱きました。この危機的状況を日本社会が乗り切るための一助として、WVJも精一杯使命を果たさなければならないとの思いを新たにしています。(高橋布美子スタッフ)

G7コーンウォール・サミット

G7シェルパに対し教育協力に関する政策提言を行いました

2021年6月11~13日にイギリスで開催されたG7サミットに際して、SDGs市民社会ネットワークや教育協力NGOネットワーク(JNNE)と協働し、国内外での政策提言や政策対話を行いました。サミット前の3月には、サミットの準備や成果文書の交渉を行う首脳の補佐役であるG7シェルパに対して、教育協力に関する政策提言を行いました。また、3~4月には、G7に対する国際的な市民社会の参画枠組みである「Civil Society 7(通称C7)サミット」やそれに先駆けたC7円卓会議に日本の市民社会の代表のひとりとして参加し、C7からG7に対する提言であるC7コミュニケ(共同声明)へのインプットを行いました。



G7シェルパとNGOの対話

SDGs国連ハイレベル政治フォーラム

SDGs推進への取り組みや課題について意見を交換

持続可能な開発目標(SDGs)の進捗を把握・議論するため、毎年、ハイレベル政治フォーラム(HLPF)が国連本部で開催されています。2021年のHLPFは、コロナ禍からの持続可能で強靱な回復をテーマとし、日本政府が2回目となる自発的国連レビュー(VNR)の発表を行ったほか、HLPFの一環として開催されたVNR Lab(VNRラボ)にて、日本のVNRプロセス共有に関するイベントを開催しました。このイベントに、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)からも柴田スタッフがパネリストとして登壇し、経済界、地方自治体、市民社会のパネリストとともに、これまでのSDGs推進に向けた取り組みや、VNRを踏まえた今後の取り組みと課題について意見交換を行いました。



オンライン開催されたHLPFイベントに登壇する柴田スタッフ
(下段中央)

「緊急下の教育」に関する勉強会

教育支援について私たちが果たすべき役割を討論

災害や紛争等の緊急事態における教育支援について考える「緊急下の教育(EiE)勉強会」の第11回会合を、2021年4月27日に開催しました。WVJが副代表をつとめ、運営に携わる「教育協力NGOネットワーク(JNNE)」では、EiEの取り組みを通じて得られた知見や経験を関係者間で共有し、より良い支援を届けるために、2016年より継続してEiE勉強会を開催しています。今回は、「教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait:ECW)基金」の大島義幸氏を迎え、ECWの概要等を紹介いただき、WVJ大川スタッフからECW資金を活用した事業例を紹介しました。政府機関、国際機関、学校関係者、民間企業、NGO等幅広い参加者を得て、活発な意見交換が行われました。



勉強会でWVJの事業例を紹介する大川スタッフ(下段右)

企業・団体との連携

企業との連携

1,827社から、総額390,368,668円のご支援をお寄せいただきました

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力等、さまざまな支援・協力をいただきました。また今年度も引き続き、新型コロナウイルス緊急対応への支援も多くお寄せいただきました。

2021年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援



武田薬品工業株式会社

武田薬品工業が展開するグローバルCSRプログラムの支援により、「地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健事業プログラム」をアフガニスタン、インド、バングラデシュ、ネパールの4カ国で実施しました。



塩野義製薬株式会社

ご法人とシオノギグループ社員からのご寄付をもとにケニアの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」をご支援いただいています。2021年度は第1期事業(2015年～2021年)が終了し、第2期事業(2020年～2023年)を実施しました。

The Pokémon Company

株式会社ポケモン

The Pokémon Companyグループが世界で行なう社会貢献活動の柱である「子どもたちの生活の向上」のための取り組みの一環として日本、台湾、タイ、シンガポールの4カ国で特別プロジェクトを実施しました。

チャイルド・スポンサーシップ等を通して



山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援くださっています。また2021年度は、ヤマザキ『ラブ・ローフ募金』により、エチオピアでの産科棟建設支援事業を実施しました。



玉の肌石鹸株式会社

20年以上の長きにわたって国内外の子どもたちを支援いただき、関係会社とあわせて100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。

tutu.anna

株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して、25人のチャイルドを支援いただいています。また2021年度は、インドネシアでの教育支援事業、ベトナムでの女性の生計向上支援事業を実施しました。



クラウドバンク・グループ

クラウドファンディング事業等から得た収益をもとに、アジア5カ国100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を支えていただいています。



株式会社山田養蜂場

世界8カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。社員の方々がチャイルドからの手紙を楽しみに、交流を続けてくださっています。



三菱自動車工業株式会社

12人のチャイルド・スポンサーとしての支援に加え、2021年度は特別プロジェクトとしてインドネシアでの校舎建設支援事業に協力いただきました。

商品・サービスの売り上げからの寄付



ジースブレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通じた支援に加え、「しあわせのカルテットクランチ」「Happy Gift」「やさしさセット」の売上からのご寄付により、アジア・アフリカでの学校建設を支援いただいています。2021年度は、5校目となるインドネシアでの支援に参加いただきました。

支援・協力をいただいた企業(一部)



株式会社サンブロス

東芝プラントシステム株式会社

東芝プラントシステム株式会社



横河電機株式会社



パナソニック株式会社



ヒロセ通商株式会社



ハニカム・テクノロジー株式会社



株式会社ウチヤマホールディングス



株式会社タイセイ



ミヨシ石鹸株式会社



有限会社香取運輸



株式会社レントラックス



日清製粉株式会社



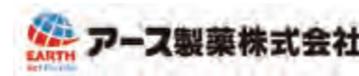
株式会社不二家



オリエンタル酵母工業株式会社



月島食品工業株式会社



アース製薬株式会社



株式会社シンシア



株式会社 プチファーマシスト



株式会社NTTデータ



ヤフー株式会社



株式会社オカムラ

MS&ADゆにぞんスマイルクラブ 日本手芸普及協会
株式会社ブルマーレ
三菱自動車STEP募金
NTT Com DD株式会社
アマゾンジャパン合同会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
ファルマ・ソリューションズ株式会社

有限会社アフィリエイトランド
株式会社アプリシエイト
株式会社秋山住研
キャリアインキュベーション株式会社
株式会社isisホールディングス
功成建設株式会社
株式会社マスバック

株式会社ニッシンイクス
チーカス株式会社 サラフイープラス事業部
株式会社うおはん
株式会社双雲事務所
株式会社シーブランド
株式会社中央軒煎餅
山下湘南夢クリニック

各種団体との連携(一部)

1,142団体から、総額68,872,489円の支援が寄せられました

公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
気仙沼漁業協同組合
学校法人捜真学院捜真小学校
梅光学院大学 梅光学院中学校・高等学校
春日部共栄中学高等学校

学校法人博多学園博多高等学校
学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
玉川聖学院 高等部
日本福音キリスト教会連合 グレースコミュニティ
東京フリー・メソジスト小金井教会

日本ルーテル教会 池の上キリスト教会
日本イエス・キリスト教会 荻窪栄光教会
日本福音教会 ゴスペルハウス静岡
シオン・キリスト教会 蒲田教会
ウェスレアン・ルーテル教会 淀橋教会

広がる支援の輪

チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムに加えて、教育、保健・栄養、水衛生等、特定分野の課題解決を後押しするための個別事業を、「特別プロジェクト」として実施しています。特別プロジェクトは、学校校舎や診療所等の建設事業と研修・啓発事業等を組み合わせて行われます。支援者は企業・団体、個人等さまざまですが、近年では遺贈・相続財産のご寄付による支援も増えています。

個人による支援

ウガンダの小学校校舎建設を支援

神奈川県在住のK様は、ウガンダでの小学校校舎建設を支援くださいました。対象の小学校では教室・トイレが不足し、また校舎の老朽化が進んでおり、子どもたちは非常に窮屈な環境で学んでいました。支援により教育環境が大幅に改善したことで、子どもたちが集中して学べるようになりました。「アフリカに小学校を作ることは長年の夢でした。このような形で夢が叶えられ、子どもたちの笑顔を見ることができて本当にうれしいです」(K様)



K様の支援により建設された校舎



完成を心待ちにしていた新校舎で、笑顔の子どもたち

遺贈・相続財産による支援

インドネシアの水衛生改善事業を支援

「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で寄付することです。故人のご遺志を受け継いだ相続人が、相続財産から寄付することもできます。埼玉県在住のT様は、長年にわたりチャイルド・スポンサーとして支援くださっています。そして2021年度は、配偶者から引き継いだ相続財産により、関わりの深いインドネシアでの水衛生改善事業を支援くださいました。



インドネシアの子どもたち

マイルストーン・プロジェクトによる支援

ラオスの小学校4校の校舎建設・改修事業を支援

「マイルストーン・プロジェクト」は、一口あたり100万円の寄付を複数の方からいただき、共同でひとつの事業を実施するものです。共同で支援いただくことで、より規模の大きい事業を実施することができます。2021年度はラオスで、校舎が老朽化し子どもたちの安全が脅かされている小学校4校について校舎建設・改修事業を実施しています。



ラオスの子どもたち



支援対象となっている既存の校舎

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただいています。

グローバル教育

世界に目を向ける取り組みに4,848人が参加

日本の子どもや若者が、世界の問題を理解し自分とのつながりに気付くきっかけとなることを願って「グローバル教育」を実施しています。対面やオンラインでスタッフが世界の子どもたちについて紹介する「講師派遣」を54回実施し、3,618人に参加いただきました。国際協力やワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)に関心をお持ちの中小高校生等に事務所にお越しいただく「事務所訪問」は、新型コロナの状況を見ながら再開。1回実施し、13人をお迎えしました。昨年に続きオンライン開催となった「サマースクール」は、4回開催し1,217人の親子に参加いただきました。株式会社ポケモン様のご支援を受けて、新たに「子どもの権利と多様性」をテーマとした教材を開発し、子どもや若者への授業を実施しました。



オンラインで開催したサマースクールに参加し、クイズに答える子どもたち

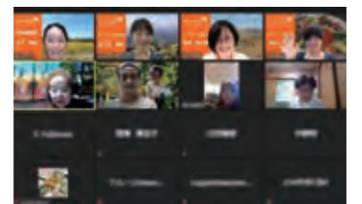


「子どもの権利と多様性」をテーマに、大学生に授業を実施しました

各種イベント

オンラインイベントにのべ約2,000人が参加

全国を巡回して開催していたワールド・ビジョン・カフェ(WVカフェ)は、2021年度、すべてオンライン開催となりました。チャイルド・スポンサーシップによる支援活動を報告するWVカフェのほか、危機発生から10年を迎えたシリアの様子をお伝えするイベント等、計14回のオンラインイベントを開催しました。現地スタッフや日本人駐在員とオンラインでつなぎ、事業の様子を現地から直接報告することができました。海外を含め、さまざまな地域に住む多くの方々に参加いただきました。



エチオピアでの活動を報告するイベントの様子

ボランティア

在宅にてさまざまなお協力をいただきました

2021年度は、緊急事態宣言により、東京事務所でのボランティア活動は全面的に休止となりました。その後は規模縮小となりましたが、これまで事務所内で英訳していたチャイルド・スポンサーの手紙を、在宅にて英訳いただく新しい活動と、チャイルドからの手紙を和訳する活動を並行して継続いただきました。これにより、チャイルドとチャイルド・スポンサーとの手紙の交流を進めることができました。また、支援地域やチャイルドの様子を伝える動画や写真の編集等、さまざまな形でWVJの活動を支援いただきました。



翻訳後、国別に分けて発送を待つチャイルド・スポンサーの手紙

Take Back Future キャンペーン



教育の力で難民の子どもの未来を守る取り組み

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築くことを目指し、2018年からの4年間「Take Back Future～難民の子どもの明日を取り戻そう～」キャンペーンを実施してきました。「教育の力」に着目し、①日本社会での関心喚起、②支援活動、③アドボカシーの3分野で進めた4年間の活動と成果をご報告します。キャンペーンは2021年度をもって幕を閉じましたが、ビジョンとして掲げてきた「子どもに対するあらゆる形態の暴力の撤廃」を目指し、皆さまとともに今後も活動を進めます。



キャンペーンが目指したことと成果

日本社会での関心喚起

目標

- 難民問題について日本社会、特に、若者への啓発
- 難民・避難民の子どものための教育支援のためのファンディング

成果

- 「私と難民がつながるアイデア・コンペティション『未来ドラフト』」4回開催
アイデア応募総数597件
- イベントおよび参加型企画参加人数:2,357人
- 難民をテーマにしたグローバル教育受講者数:2,891人

日本の若者が世界の難民問題を知り、考え、できることを見つけ、行動するようになってくれることを願って、難民ユースシンポジウム等のイベントや、アイデア・コンペティション「未来ドラフト」を4回実施しました。2018年と2019年は優勝アイデア受賞チームが、難民居住地を訪問し、アイデアを実現。2021年もヨルダンでの実現を計画中です。若者の行動を応援しようと多くの企業にご協力いただき、さまざまなメディアで紹介されました。



「未来ドラフト」の優勝アイデアを現地で実現しました(2019年)

支援事業

目標

- 人身取引や性的搾取、児童労働、子ども兵士への徴用等の暴力から子どもを守るため、紛争の影響下にある国々での教育支援の拡充

成果

- エチオピア、南スーダン、ウガンダ、シリア、ヨルダン、イラクで:
- 安全な学習環境へのアクセスを得た子どもの数:33,509人
- ライフ・スキルを養う活動に参加した人数:6,974人
- 教育の重要性に関する啓発メッセージを受け取ったコミュニティ・保護者数:18,846人

ウガンダでは、北部のピティピティ難民居住地において、南スーダン難民と近隣のウガンダ人の子どもたちに、安全に安心して学び遊べる環境の整備、就学前教育、また、初等教育の短期集中プログラムを実施し、のべ15,000人以上に教育の機会を提供しました。短期集中プログラムに参加したヴィクトリアさん(写真)はこう話しました。「紛争のため南スーダンから逃れてきました。話せなかった英語も、今では話し、書くこともできます。将来は、パイロットかドライバーか整備士になりたい。未成年で母親になり大変ですが、勉強を続け夢を叶えたいです」



将来の夢を語るヴィクトリアさん

アドボカシー

目標

- 「緊急下の教育(難民・避難民の子どもへの教育)支援」と「子どもに対する暴力撤廃」2分野での政策変容

成果

- G20大阪の成果文書で緊急下における質の高い教育と学習機会の確保を明言
- 日本政府が、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバルパートナーシップ(GPeVAC)」に大きなコミットメントを表明(パスファインディング国としての加盟、資金拠出、理事会への参画)
- 日本政府が子どもやマルチステークホルダーの意見を踏まえた「子どもに対する暴力撤廃のための国家行動計画」を策定・公表

上記2分野での政策変容と日本政府の政治的意思強化を目指し、国内外の多様なステークホルダーと協働しアドボカシーを進めました。WVの経験と独自の調査研究に基づき、政策決定者との対話も牽引しました。公開セミナー等を通して関係者の関心を高め、国連SDGsハイレベル政治フォーラム等の首脳級・閣僚級の国際会議の機会を捉えて日本のリーダーシップを後押ししました。政策の実行のために引き続き働きかけていきます。



国連SDGsハイレベル政治フォーラムでサイドイベントに登壇した柴田スタッフ(右から3人目/2018年)

2021年度 会計報告

正味財産増減の状況 2020年10月1日より2021年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減

| | | | |
|-----------------------|------------------|------------------|-----------|
| 経常収益 | | | |
| 1 受取寄付金 | 受取スポンサーシップ募金 | 3,215,112 | |
| | 受取その他募金・寄付金(1) | 880,674 | 4,095,786 |
| 2 受取補助金等 | 政府系機関からの受取補助金等 | 262,785 | |
| | (2)民間団体からの受取補助金等 | 306,371 | |
| | 国連機関からの受取委託金等 | 1,464,766 | 2,033,922 |
| 3 受取会費 | | 590 | |
| 4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益 | | 6,957 | |
| 経常収益合計(A) | | 6,137,255 | |

| | | | |
|------------------|-------------------|------------------|-----------|
| 経常費用 | | | |
| 1 事業費 | 地域開発援助事業費 | 4,956,680 | |
| | 地域開発援助・委託援助事業費(※) | 4,777,418 | |
| | 地域開発援助事業管理費(5) | 179,262 | |
| | 人材派遣費(3) | 205 | |
| | 啓発教育費 | 922,953 | |
| | 各種啓発教育費(4) | 540,144 | |
| | 啓発教育事業管理費(5) | 382,809 | 5,879,838 |
| 2 管理費(5) | | 96,102 | |
| 経常費用合計(B) | | 5,975,940 | |

| | | |
|-------------------|--|------------|
| 経常外収益 | | |
| 1 固定資産売却益 | | 182 |
| 経常外収益合計(C) | | 182 |

| | | |
|-------------------|--|---------------|
| 経常外費用 | | |
| 1 固定資産売却損・除却損 | | 6,580 |
| 2 事務所改修費用 | | 18,298 |
| 経常外費用合計(D) | | 24,878 |

| | |
|-------------------------------|------------------|
| 当期一般正味財産増減額(A+C)-(B+D) | 136,619 |
| 一般正味財産期首残高 | 1,517,116 |
| 一般正味財産期末残高(E) | 1,653,735 |

II. 指定正味財産増減

| | |
|-------------------------|----------------|
| 当期指定正味財産増減額 | 60,696 |
| 指定正味財産期首残高 | 283,047 |
| 指定正味財産期末残高(6)(F) | 343,743 |

III. 正味財産期末残高

| | |
|----------------------------|------------------|
| 正味財産期末残高(※※)(E)+(F) | 1,997,478 |
|----------------------------|------------------|

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。
 ※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。
 (1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。
 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2021年度財務諸表等(2020年10月1日より2021年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。
 2021年11月16日 森岡伸介公認会計士事務所による監査
 2021年12月15日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 チャイルド・スポンサーシップ募金 : 「受取スポンサーシップ募金」
 その他募金・寄付金 : 「受取その他募金・寄付金」
 補助金等 : 「受取補助金等」
 その他 : 「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 現地事業活動のため : 「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
 広報活動のため : 「啓発教育費」
 団体の運営・管理のため : 「管理費」

資産・負債の状況 2021年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部

| | | |
|-------------|-----------------|------------------|
| 1 流動資産 | | 490,742 |
| | 現金預金 | 441,925 |
| | 前払金 | 42,504 |
| | 立替金 | 1,505 |
| | 仮払金 | 142 |
| | その他流動資産 | 4,666 |
| 2 固定資産 | | 1,847,678 |
| | 基本財産 | 50,000 |
| | 特定資産(6) | 1,694,740 |
| | 補助金・助成金・委託金引当資産 | 337,103 |
| | 地域開発援助事業引当資産 | 1,185,000 |
| | 募金引当資産 | 6,640 |
| | その他特定資産 | 165,997 |
| | その他固定資産(7) | 102,938 |
| 資産合計 | | 2,338,420 |

II. 負債の部

| | | |
|-------------|---------|----------------|
| 1 流動負債 | | 189,945 |
| | 未払金 | 159,529 |
| | 預り金 | 7,778 |
| | 賞与引当金 | 22,568 |
| | 未払法人税等 | 70 |
| 2 固定負債 | | 150,997 |
| | 退職給付引当金 | 150,997 |
| 負債合計 | | 340,942 |

III. 正味財産の部

| | |
|-------------------|------------------|
| 1 指定正味財産 | 343,743 |
| (うち特定資産(6)への充当額) | (343,743) |
| 2 一般正味財産 | 1,653,735 |
| (うち基本財産への充当額) | (50,000) |
| (うち特定資産(6)への充当額) | (1,200,000) |
| 正味財産合計 | 1,997,478 |
| 負債及び正味財産合計 | 2,338,420 |



会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準**：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」(2008年4月11日 2020年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について**：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準**：
 - 賞与引当金： 職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
 - 退職給付引当金： 職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理**：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳(単位:千円)

| | |
|----------------------|----------------|
| 児童保護募金 | 2,397 |
| 誕生日記念募金 | 23,894 |
| 危機にある子どもたちのための募金 | 49,052 |
| ラブ・ロープ募金 | 12,918 |
| うちラブ・ロープ募金 | 1,954 |
| うちヤマザキ【ラブ・ロープ】募金 | 10,964 |
| 緊急援助募金 | 24,366 |
| うち新型コロナウイルス緊急支援募金 | 19,918 |
| うちシリア緊急支援募金 | 744 |
| うちミャンマー難民危機緊急支援募金 | 802 |
| うちレバノン爆発緊急支援募金 | 548 |
| うちエチオピア北部緊急人道支援募金 | 380 |
| クリスマス募金 | 132,294 |
| 水と食糧のための募金 | 15,234 |
| 夏期募金 | 89 |
| 難民支援募金 | 99,045 |
| コミュニティ・サポーター | 83,455 |
| プロジェクト・サポーター | 9,796 |
| プロジェクト・サポーター(難民支援) | 32,547 |
| ラオスの子どもたちのための募金 | 47,178 |
| 特別プロジェクト募金 | 318,841 |
| 物資の受入 | 11,313 |
| その他の募金・寄付金 | 18,255 |
| 受取その他募金・寄付金合計 | 880,674 |

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳(単位:千円)

| | |
|-------------------------------|----------------|
| 広告費 | 455,316 |
| 各種広告費 | 387,844 |
| パンフレット等印刷費・通信運搬費他 | 67,472 |
| 広報費 | 29,057 |
| 年次報告書(2020年度版)制作・発送費等 | 11,039 |
| 団体ホームページ制作費等 | 8,499 |
| その他の広報活動費 | 9,519 |
| ニュースレター制作・発送費等 | 19,298 |
| チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等 | 33,162 |
| その他啓発費等 | 3,311 |
| グローバル教育活動・学校訪問等の費用 | 1,671 |
| ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等 | 1,640 |
| 各種啓発教育費合計 | 540,144 |

(2) 受取補助金等の内訳(単位:千円)

| | |
|---|----------------|
| 政府系機関からの受取補助金等 | 262,785 |
| 外務省 日本NGO連携無償資金協力 | 262,785 |
| エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(3年次) | -1,164 |
| バングラデシュ/シレット県コウインガト郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(3年次) | -38 |
| バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業1 | 3,530 |
| バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業2 | 50,999 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途40,978千円保有しています。) | |
| ラオス/タバントン郡における初等教育の学習環境改善事業1 | -6,605 |
| ラオス/タバントン郡における初等教育の学習環境改善事業2 | 26,942 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途31,743千円保有しています。) | |
| タンザニア/ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト1 | 15,964 |
| タンザニア/ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト2 | 45,537 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途53,937千円保有しています。) | |
| エチオピア/アムハラ州フェレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業1 | 13,541 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途8,871千円保有しています。) | |
| ベトナム/ディエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業1 | 10,803 |
| ベトナム/ディエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業2 | 28,209 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途45,652千円保有しています。) | |
| カンボジア/プレアピビア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業1 | 18,593 |
| カンボジア/プレアピビア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業2 | 56,474 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途27,057千円保有しています。) | |

| | |
|--|----------------|
| 民間団体からの受取助成金等 | 306,371 |
| 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム | 296,102 |
| ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業6 | 4,029 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,385千円保有しています。) | |
| ヨルダン/アズラック難民キャンプおよび非公式居住地における新型コロナウイルス感染症予防のための水衛生支援事業 | 40,903 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途45,172千円保有しています。) | |
| 南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業3 | 2 |
| 南スーダン/マラカール市内における新型コロナウイルス感染症予防支援 | 24,451 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途16,313千円保有しています。) | |
| バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業 | -7 |
| バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力からの保護とコミュニティの対応力強化事業 | 13,570 |
| バングラデシュ/ミャンマー避難民キャンプ大規模火災被災者への生活復旧支援事業 | 22,757 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途3,943千円保有しています。) | |
| バングラデシュのミャンマー避難民居住地における新型コロナウイルス感染症予防のための水・衛生支援事業 | 967 |
| ウガンダ北部における難民居住地での教育・子どもの保護事業 | -218 |
| ウガンダ/ビティビティ難民居住地における子どもの保護事業 | 18,860 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,140千円保有しています。) | |
| イラク/モスル西部で紛争の影響を受けた子どもたちのための教育・保護環境改善事業 | -14 |
| イラク/モスル西部の緊急期における子どもの保護事業 | 2,417 |
| イラク/モスル西部の緊急期における子どもの保護事業(上記継続事業) | 19,381 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途243千円保有しています。) | |

| | |
|--|--------|
| 南スーダン/セントラル・アッパーナイル・緊急期の教育支援事業 | 4,042 |
| 南スーダンアッパーナイルにおける緊急期の教育支援事業 | 20,684 |
| シリアにおける国内避難民への水衛生支援事業 | 2,250 |
| シリアにおける紛争の影響下にある人々への水衛生支援事業 | 27,374 |
| シリアにおける新型コロナウイルス感染予防対策と水衛生事業 | 51,789 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途51,211千円保有しています。) | |
| エチオピア/ティグライ州における緊急水衛生・保健栄養支援事業 | 42,865 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途7,135千円保有しています。) | |

| | |
|---|--------------|
| パナソニック株式会社 | 4,892 |
| ケニアエンクト地区電化による生活改善支援事業 | 4,892 |
| 横河電機株式会社 | 5,377 |
| バングラデシュ/シレット県の地域の特性に応じた安全な水へのアクセス改善事業 | 5,377 |
| (当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途2,323千円保有しています。) | |

| | |
|---|------------------|
| 国際機関からの受取委託金等 | 1,464,766 |
| 国連児童基金(UNICEF) | 81,364 |
| 国連世界食糧計画(WFP) | 766,215 |
| うち、受取委託物品 | 324,789 |
| 世界銀行(World Bank) | 65,387 |
| 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) | 170,583 |
| 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) | 247,219 |
| 国連食糧農業機関(UNFAO) | 37,989 |
| 欧州委員会人道援助・市民保護総局(ECHO) | 16,511 |
| 教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW) | 79,498 |
| 受取補助金等合計 | 2,033,922 |

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

(5) 事業管理費等の内訳、および集計(単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接かかわる国内管理費
 啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接かかわる国内管理費
 管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

| | 事業管理費等合計 | 地開管理費 | 啓発管理費 | 管理費 |
|-----------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 人件費等 | 403,092 | 133,952 | 203,777 | 65,363 |
| 会議費 | 511 | 28 | 45 | 438 |
| 旅費交通費 | 3,793 | 695 | 2,505 | 593 |
| 賃借料 | 75,655 | 24,385 | 39,399 | 11,871 |
| 支払手数料 | 121,747 | 3,629 | 110,241 | 7,877 |
| その他の管理費 | 53,375 | 16,573 | 26,842 | 9,960 |
| 合計 | 658,173 | 179,262 | 382,809 | 96,102 |

人件費等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2021年9月30日現在、職員71人、嘱託・アルバイト10人が在職
 会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
 旅費交通費：職員の通勤費、事務所ボランティアの方の事務所までの交通費等
 賃借料：事務所家賃
 支払手数料：入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳(単位:千円)

| | |
|------------------------------------|----------------|
| 補助金・助成金・委託金引当資産(指定正味財産)の内訳 | |
| NGO連携無償助成金 バングラデシュ ダッカ2事業分 | 40,978 |
| NGO連携無償助成金 ラオス2事業分 | 31,743 |
| NGO連携無償助成金 タンザニア2事業分 | 53,937 |
| NGO連携無償助成金 エチオピア バハルダール1事業分 | 8,871 |
| NGO連携無償助成金 ベトナム 人身取引予防2事業分 | 45,652 |
| NGO連携無償助成金 カンボジア プレアピビア2事業分 | 27,057 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 ヨルダン6事業分 | 1,385 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 ヨルダン 水衛生事業分 | 45,172 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 南スーダン COVID-19事業分 | 16,313 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 バングラデシュ 大火災事業分 | 3,943 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 ウガンダ3事業分 | 1,140 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 イラク4事業分 | 243 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア3事業分 | 51,211 |
| ジャパン・プラットフォーム助成金 エチオピア ティグライ事業分 | 7,135 |
| 横河電機 バングラデシュ事業分 | 2,323 |
| 補助金・助成金・委託金引当資産合計 | 337,103 |

当年度までに受領した上記事業にかかる補助金等のうち、2022年度以降に支出を予定している金額です。

| | |
|-------------------------|---------|
| 地域開発援助事業引当資産の内訳 | |
| スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7) | 938,000 |
| 一般募金による地域開発援助事業引当資産(4) | 237,000 |
| 緊急援助事業引当資産(7) | 10,000 |

地域開発援助事業引当資産合計 1,185,000

(7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に用途を特定した資産であり、2022年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。

(4)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に用途を特定した資産であり、2022年度以降に支出を予定しています。

(7)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

| | |
|--------------------------------|--------------|
| 募金引当資産(指定正味財産)の内訳 | |
| 地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム事業分 | 6,640 |
| 募金引当資産合計 | 6,640 |

| | |
|-------------------|---------|
| その他特定資産の内訳 | |
| 退職給付引当資産 | 150,997 |
| 固定資産引当資産 | 15,000 |

その他特定資産合計 165,997

(7) その他の固定資産の内訳(単位:千円)

| | |
|--------|--------|
| 建物附属設備 | 13,250 |
| 什器備品 | 11,708 |
| ソフトウェア | 27,694 |
| 電話加入権 | 373 |
| 敷金 | 49,913 |

その他の固定資産合計 102,938

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2021年度(2020年10月1日~2021年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=106.62円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2人の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3~5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に『何か』はできなくとも、誰かに『何か』はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



ワールド・ビジョン創設者
ボブ・ピアス

組織と運営

WVでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のWVの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を開始する国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



ワールド・ビジョン 全体の活動データ(2020年度)

組織関連

活動国数

約100カ国

スタッフ数

約34,950人

ボランティア数

約112,000人

活動関連

開発援助

チャイルド・スポンサーを紹介されている子ども

340万人以上

チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラム(AP)の総数

1,250

APIによる支援が届いている人

約4,700万人

緊急人道支援

緊急人道支援を届けた人

約2,710万人

アドボカシー

ぜい弱な子どもたちのために実施された運動

約600万件

ワールド・ビジョン・ジャパンについて

ワールド・ビジョン・ジャパンの始まり

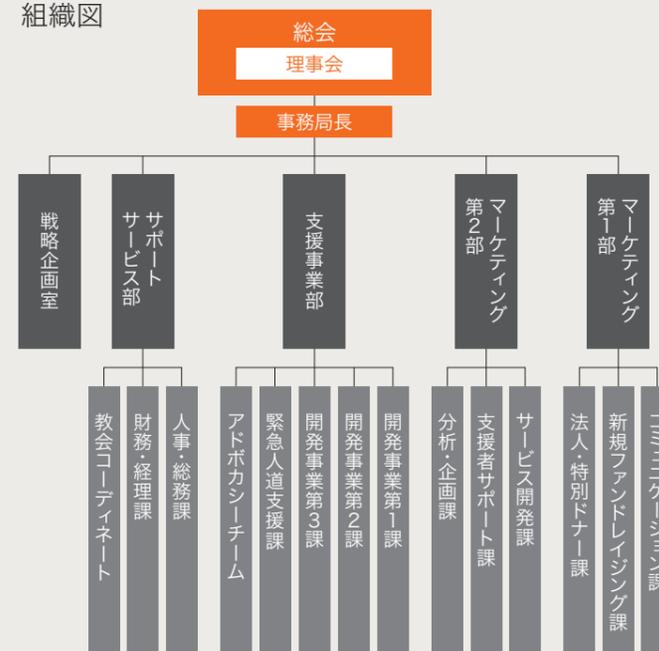
WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年には「特定非営利活動法人」の認証を得て、法人格を持つ民間の援助機関となりました。また2002年5月には、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。

(その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは東京都より改めて認定されています)



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 小西 孝蔵(元農林中央金庫監事)
- 副理事長 飯島 延浩(山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 常務理事 片山 信彦
(前特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 峯野 龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会牧師)
- 理事 湊 晶子(学校法人 広島女学院 顧問)
- 理事 三木 晴雄(玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長)
- 理事 安西 愈(弁護士)
- 理事 樋口 紀子(梅光学院学院長・学長)
- 理事 安藤 理恵子(玉川聖学院 中等部・高等部学院長)
- 理事 木内 真理子
(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 富岡 徹郎(国際基督教大学 常務理事)
- 理事 チャールズ・パデノック
(ワールド・ビジョン・インターナショナル パートナーシップ・リーダー)
- 監事 村上 宣道(一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
- 監事 中島 秀一(日本イエス・キリスト教団茨城栄光教会牧師)

親善大使 ジュディ・オング(歌手・女優・木版画家)

親善大使 酒井 美紀(女優)

2022年1月現在



SDGsへの取り組み

WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通じて、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)の達成に向けた取り組みを進めています。

